

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：43505

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K20279

研究課題名（和文）「種の論理」から「市民主義」の教育思想へ：田邊元と久野収の教育論に着目して

研究課題名（英文）From the Logic of Species to the educational thought of Citizenism: Focusing on Hajime Tanabe's Philosophy and Osamu Kuno's Arguments on Education

研究代表者

川上 英明 (Kawakami, Hideaki)

山梨学院短期大学・その他部局等・講師（移行）

研究者番号：40910469

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、哲学者・田邊元の「種の論理」を、思想家・久野収がいかに受容ないし批判した上で、久野の「市民主義」にもとづく教育思想が論じられたのかを明らかにすることを旨としたものである。久野は、種の論理の国家主義的な側面を批判し、「種」の概念を自発的結社などに求め、のちの市民主義的な立場の前提を構築した。この立場から、戦後、久野は教育論を展開したが、そこには市民性を重視する特質をうかがうことができる。このことから、久野の種の論理批判は、戦後の彼の教育思想を支えるものであったことが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、日本の戦後教育思想における「京都学派教育学」の文脈に対して、京都学派の思想圏から離脱して展開された教育思想の可能性を、久野収に着目して考察したことにある。一般的に、京都学派教育学はその政治性が問題視されているが、思想史の可能性として、田邊哲学を批判して展開された久野の市民主義とそれにもとづく教育論は、従来の京都学派教育学研究に対して独特な特質を有している。京都学派との距離の置き方の相違によって、各論者の教育思想の射程が考えられるということを示唆した点が、本研究の学術的意義である。

研究成果の概要（英文）：This research aims to clarify how the philosopher Hajime Tanabe's "Logic of Species" was accepted or criticized by the philosopher Osamu Kuno, and then his educational philosophy based on Kuno's "citizenism" was discussed. It is aimed at Kuno criticized the nationalist aspect of the logic of species, sought the concept of "species" in voluntary associations, and constructed the premise of his later position of the citizenism. From this standpoint, Kuno developed his theory of education after the war, and we can see in it his characteristic of emphasizing citizenship. From this, it became clear that Kuno's kind of logical criticism supported his educational thought after the war.

研究分野：教育思想史

キーワード：京都学派 京都学派教育学 田邊元 久野収 市民主義

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初の背景には、教育思想史研究における「京都学派教育学」の主題化があった。「京都学派」とは、戦前、京都帝国大学文学部哲学科における哲学者・西田幾多郎と田邊元との両名のもとに集まった哲学者集団を意味する。京都学派それ自体は、哲学の領域において、近年もさらに研究が進んでおり、そのような潮流の中で、京都学派の影響を受けながら教育学の領域において思想形成した学者たちの研究も進められている(矢野 2021)。

京都学派は、戦後、その戦争協力の問題もあり、否定的な評価を下されてきた(廣松 1989)。確かに、京都学派と戦争協力の問題は切り離せないが、近年ではその問題性を十分に考慮した上で、改めてその可能性を浮かび上がらせるような研究も登場している。そして、その傾向は、教育思想史研究においても同様である。

しかし、従来の京都学派教育学研究は、その思想の保守性に由来する政治的な一面性という限界を有していたと言わざるを得ない。その理由は、主に天野貞祐や高坂正顕といった保守思想家に位置づけられてきた論者たちが、これまでの京都学派教育学研究において取り上げられていることに由来する。そのため、現代においても、京都学派教育学を背景に持つ「教育人間学」の領域に対しては、その政治性の問題が提起されてきた(関根 2014)。ここでは、教育と政治の関係性という近年の問題提起を背景として(小玉 2016) 京都学派教育学における政治性の問題が指摘されているのである。

以上を踏まえて、本研究では、「京都学派教育学」の政治的な可能性を、京都学派の思想圏において教育を思考した思想家の検討を通して導出することを課題として設定した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、「京都学派教育学」の政治的な可能性を、思想史的研究方法をもって導出することである。この目的のために、本研究では、京都学派の哲学を背景に持つものの、その思想圏から離脱し、「市民主義」の思想を展開した思想家である久野収(1910-1999)の教育思想を研究対象として取り上げる。

久野は、戦前、京都帝国大学文学部哲学科において、京都学派の双壁の一人である田邊元に師事していた。久野自身、しばしば語っているように、田邊からジョン・デューイの研究を勧められ、それを契機にプラグマティズムに傾倒したり、田邊の独特な「種の論理」における「種」の概念を、民族としてではなく、連帯する共同体としても考えられるのではないのかと論争していたりする過去があった(久野収ほか 1995)。ここから分かるように、久野は田邊の影響を受けつつも、そこから距離を置くことで、戦後には「市民主義」の思想を展開するようになったのである(久野 1960)。

そのため、本研究は、久野の市民主義と、田邊の哲学との関係性を精査し、久野が田邊哲学からどのような影響を受け、そこからどのように距離を置いたのかということ明らかにすることで、京都学派教育学の政治的な展開可能性を導出するための手がかりとなることが期待される。その学術的独自性は、従来の保守思想家に集中した京都学派教育学研究に対して、市民主義を主な立場とする久野の教育思想を対象とする点に求められる。そして、本研究の創造性は、京都学派教育学における政治性の今日的な展開可能性を、久野の市民主義を一つの軸として導出しうる点に求められるだろう。

## 3. 研究の方法

本研究において明らかにしようとする問いは、久野収が田邊元の「種の論理」をいかに読み替えて、自らの「市民主義」の思想へと展開させたのかということである。さらに、この解明を踏まえた上で、久野の教育論を彼の市民主義の立場から捉え直し、京都学派から市民主義の教育思想への展開可能性を描き出すことが、本研究の目指す最終地点となる。そのため、本研究では以下の二点の解明を試みる。

### (1) 久野による「種の論理」解釈の独自性の解明

久野がしばしば述べているように、「種」の概念を民族としてではなく、信仰の連帯などの社会的な共同体として解釈する可能性をめぐって、田邊や高坂、高山岩男らと論争をしていたことは、「種の論理」の現代的な可能性という側面から見ても、検討に値する論点となる。そしてその解釈が、久野自身の「市民主義」の思想へと展開する経緯を明らかにし、種の論理から市民主義への道程を明らかにすることを目指す。

### (2) 久野の教育思想と市民主義との関係性の解明

久野は、教育学者の勝田守一と雑誌『教育』で対談していたり、岩波講座『教育』の編集に参加して自ら論文を寄稿したりしていた。そこで論述されている教育論を、彼の市民主義の思想と架橋させ、その関連性を解明することで、「市民主義の教育思想」とでも呼ぶべき久野の教育思想が明らかになるだろう。

## 4. 研究成果

( 1 ) 久野による「種の論理」解釈の独自性の解明

久野は、田邊の「種の論理」に対して、以下のように批判している。

個人であるかぎり、種に埋没する、その種を田邊さんは民族と考えるけれども、この民族を内から開く任意的団体や自発的結社をよりどころにしてもいいはずで、ぼくらはそれを、知識の連帯とか、信仰の連帯とか、労働の連帯とかと呼んで、この連帯と組織化を志向したのです。そういう個の連帯組織が民族を超えるんだから、そっちを強めなければだめだと思える。同時にその力点のおき方で高坂正顕、高山岩男氏たちと論戦になったわけです。(久野ほか 1995 : 22)

この批判を手がかりとして、本研究では、久野が種の論理における「種」の概念を独自に解釈し、個人の連帯や自発的結社の重要性を論じていたことを解明した。その上で、彼の種の論理への批判は、後年の彼の「市民主義」の立場にも通底するものであることを指摘した。

( 2 ) 久野の教育思想と市民主義との関係性の解明

( 1 )に加えて、さらに本研究では、久野の市民主義の立場と、彼自身の教育思想との関係性がいかなるものだったのかということを検討した。久野はもともと、ジョン・デューイにおける個人主義の思想に可能性を見出し、個人が組織から独立することの意義を主張していた。その考え方は、「教育の中立性」に対する「教育の独立性」という発想に通じていると考えられる。1952年の論文「教育をささえる思想」では、以下のように論じられている。

いうまでもなく外部の政治権力は、単に教育の現場に外部から公定の精神を注入するだけではなく、行政や財政の機構を通じて教育への支配を確立するのである。従って行政や予算の問題に無関心であったり、中立的であったりする教育思想は、教育者の現場における自主的理想や方針を守りぬく見込みが非常にとぼしいといわなければならない。(久野 1952 : 76)

教育の中立性という主張自体は、勝田守一なども論じているが、久野がそれらに対して独特であったのは、勝田らに看過されている「民衆の感情」や、教育と文化の問題を考えようとしていた点にある(勝田・久野 1957 : 13)。

( 1 )と( 2 )の研究成果を統合して考えれば、久野は京都学派の哲学、特に田邊の「種の論理」を批判し、個人の連帯や自発的結社の重要性を論じた。その立場が後年の「市民主義」に通底し、特に個人主義の立場から、教育の問題をも思考していたことが、久野の教育思想の特質とすることができる。このことから、久野の教育思想は、「京都学派の思想圏から市民主義の教育思想へ」の筋道を辿ったとすることが可能であろう。

参考文献

- 勝田守一・久野収(1957)「民主主義と教育」『教育評論』第6巻第1号、10-27頁。  
久野収(1952)「教育をささえる思想」『岩波講座教育』第3巻、岩波書店、67-108頁。  
久野収(1960)「市民主義の成立：一つの対話」『思想の科学』第4次第19号、9-16頁。  
久野収・浅田彰・柄谷行人(1995)「京都学派と三〇年代の思想」『批評空間』第4号、太田出版、6-33頁。  
小玉重夫(2016)『教育政治学を拓く：18歳選挙権の時代を見すえて』勁草書房。  
関根宏朗(2014)「政治的教育人間学の成立可能性を考える」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第23号、39-55頁。  
廣松渉(1989)『近代の超克 論：昭和思想史への一視角』講談社。  
矢野智司(2021)『京都学派と自覚の教育学：篠原助市・長田新・木村素衛から戦後教育学まで』勁草書房。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 川上英明	4. 巻 43
2. 論文標題 久野収における 教育と政治 をめぐる問題構制：彼の道徳教育論とその特質に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『山梨学院短期大学研究紀要』	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川上英明	4. 巻 30
2. 論文標題 田邊元と森昭の経験主義批判における認識論の問題：京都学派教育学における「行為的自覚」の系譜	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育思想史学会『近代教育フォーラム』	6. 最初と最後の頁 147-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川上英明	4. 巻 88(4)
2. 論文標題 田邊元と森昭における偶然性の問題：戦後教育学の発達論に伴う必然性を相対化するために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本教育学会『教育学研究』	6. 最初と最後の頁 610-621
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川上英明	4. 巻 42
2. 論文標題 大正生命主義の思想圏における木下竹次の合科学習：「総合的な学習 / 探究の時間」の思想史のために	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『山梨学院短期大学研究紀要』	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 川上英明
2. 発表標題 種の論理から市民主義の教育思想へ：久野収による田邊元への批判に着目して
3. 学会等名 教育哲学会第65回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川上英明
2. 発表標題 市民主義の教育思想：久野収における教育と個人主義の交叉
3. 学会等名 日本教育学会第81回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------